

## 平成 29 年度 岡山県総合教育会議 議事録

1 日 時 平成 30 年 1 月 19 日(金)〈開会：13 時 10 分、閉会：13 時 50 分〉

2 場 所 県庁 3 階第 1 会議室

3 出席者 知 事 伊原木 隆太  
教育長 竹井 千庫  
教育委員 上地 玲子 中島 義雄 松田 欣也  
梶谷 俊介 田野 美佐  
浅口市立鴨方東小学校長 安田 隆人

### 4 協議事項に係る出席者の発言

#### 【知事】

本日の会議のテーマは、「教職員の働き方改革」である。現在、学校では、部活動指導や事務作業などにおける教員の負担軽減が大きな課題となっている。このため、モデル校における業務改善の実践研究等も踏まえ、教員が担うべき業務の明確化を図った上で、教師業務アシスタントや運動部活動支援員の配置などにより、教員が元気で意欲的に、子どもたちと十分に向き合うことのできる環境づくりを進めている。

本日は、この教職員の働き方改革について、教育委員の皆さま方とも議論を進め、今後の取組等の参考にさせていただきたいと考えている。

まず、教職員の働き方改革の現状や取組等についてご説明いただく。

#### 【教職員課長】

まず、現状であるが、教員が勤務時間外に多く働いているという中で、一体何に多くの時間を割いているかということを示している。まず第一が「授業準備」、そのほか「校務分掌」「部活動」といったところに時間を割いているという状況である。また、時間がかかる、かからないにかかわらず、負担を感じているものとしては、第一が「調査・報告書」の作成、そして「校務分掌」「部活動」になっているので、教員としては、「授業準備」に時間はかかるけれども、負担は感じていない。しかしながら、「調査・報告書」は、時間がかからないけど、負担を感じているという状況である。

こうした状況の中で、教育委員会では、昨年 6 月に「働き方改革プラン」を策定し、4 つの重点取組を実施する中で、今後 3 年間で教職員の月当たりの時間外業務を 25% 削減することとしている。特に今年度は、お盆時期における学校閉庁の全県実施や部活動休養日の徹底について重点的に取り組んだところである。

また、国の事業を活用して、3 市 3 校をモデル校に指定し、効果的な取組の研究を行っているところである。この後、具体的な取組の実践については、モデル校に指定

している鴨方東小学校の校長先生からご報告する。

国では昨年12月に、中央教育審議会から働き方改革に関する中間まとめが示されており、その中で学校内の業務を3つに整理している。「基本的には学校以外が担うべき業務」「学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務」「教師の業務だが、負担軽減が可能な業務」に分類して、今後この観点から教員の業務縮減を図るよう提案していくということである。

県としては、こうした国の動きも踏まえながら、来年度に新たなモデル校を指定して、以下の3つの取組を進めていく。

1つ目として、ICTを活用した出退勤管理と留守番電話の全県での導入促進。2つ目として、中教審の中間まとめで示された内容の研究。3つ目として、保護者等の理解を得ながら、部活動の休養日のさらなる徹底に取り組んでいくこととしている。

続きましてモデル校として実践研究をしている、浅口市立鴨方東小学校からご説明させていただきます。

## 【安田校長】

本校の児童は、全体的に明るく素直で、落ち着いた学習環境の中で学校生活を送っている。また、地域や保護者の方々は、学校教育に理解を示し、教育活動やPTA活動に協力的である。

職員構成は資料の通りで、業務改善にかかわる職務では、学級アシスタントが配置されている。教材や掲示物の作成、調査のデータ入力など、様々な業務をアシストしている。

しかしながら、取り組む前の実態を見ると、平成29年2月から6月では、勤務時間が増加傾向にあった。新年度スタート時ということや、若い教員は退校時刻が遅くなりがちということもあるが、本当にそれだけなのかを調べてみた。

全体的に退校時刻が遅い教員が多く、会議や週3回の終礼は、時間設定もされておらず、長引くことがほとんどであった。

何がそうさせているのか、原因を考えてみた。せっかく学級アシスタントの方々に業務をお願いしても、その分早く帰るのではなく、漠然と業務に取り組んでいるというように業務管理に対する意識が低いことが一番に考えられる。また、新しく赴任してきた教員や若い教員は、21時過ぎても、多くの教員が残っていれば帰りづらいと感じている。PTA関係や学校行事の時間的、精神的な負担が大きく、他の業務を圧迫していることは、業務の棚卸しを実施した時に明らかになった。校務分掌の集中については、私に責任があると思っている。特定の教員に重い校務が集中していた。分掌上での担当は複数名いるが、教員はまじめで、責任感が強いので、主任が一人で対応して、その分遅くまで残っているという状況であった。

こうした状況から、3つのビジョンを掲げた。

まずは、「生産性を高め、教育の質の向上を図る」こと。そして2つ目は、当初、時間外勤務の25%減という数字ばかりを考えていたが、コンサルタントの話を聞いてい

ると、やはり働き方改革は意識改革であり、生き方改革であるということ。一人ひとりが仕事や家族、自分自身のことを考え、振り返る中で、結果として時間外の縮減につながっていくということである。3つ目は、本校はコミュニティ・スクールの導入を同時に進めている。地域やPTAの方々と、子どもの成長を図る上での課題等について、熟議を重ね、教職員の働き方についても協議し、笑顔で明るく元気な教員が子どもたちに向き合うことができるような職場環境にしていきたいと考えている。

ビジョンの実現に向け、地域住民とPTA、教職員の各年代からの代表でプロジェクトチームを設置し、コンサルタントや岡山大学の教授、コクヨ株式会社と連携をして取り組んでいる。外部の方に入っていただくことで、民間の視点で学校を見直すことができ、働くことの意義の違いを感じることができる。企画ミーティングの中で実際の声として「先生は忙しいと言っているが、夜7時ごろ職員室をのぞいてみたら、お茶を飲み、お菓子を食べながら楽しそうにしゃべっていた。それは、仕事していることにはならない」と言われた。厳しい意見で、ドキッとした。時間短縮だけではなく、意識を変えないといけない、今までの当たり前を見直していかなければいけないと強く感じた。

本校の働き方改革の特徴は、3つである。保護者、地域、民間企業と連携、協働することで、意識改革・学校の常識改革を行い、スピード感のある改革を推進すること。そして、コミュニティ・スクールと一体化し、三者の課題や学校の負担等を共有して、教員が笑顔で元気で子どもと向き合うことができる組織体制の構築を図ること。そして、3つの領域を通して時間対効果等を高め、目的を明確化し、意識改革を行うことである。

この3つのプロジェクトについて、企画ミーティングを核に全職員で検討し、取り組むことで、個々の意識が変容し、結果として時間外勤務の縮減につながると考えた。

業務改善についてであるが、年度当初に「何をやって、何をやらないのか」「改善すべきことは何か」についてのアンケートを実施した。その結果、県の現状とは少し違うが、特徴的なのは、負担度の2番目に学校行事、そして保護者やPTAの対応が挙がっていることである。アンケートをもとに、管理運営、学校行事、PTA関係など、100を超える業務項目に対する全職員の意見を集約し、検討部会と企画ミーティングで確認・検討して、方向性を決めた。この作業は夏休みに行ったが、業務の棚卸しを全職員、そして地域や保護者の方と検討することで、廃止や簡略化の結果が見えてくる。自分たちで考え、改善が進んでいることが見えてくるといった、改善の見える化により、意識も変わってきているのではないかと感じている。また、校務分掌の新体制化であるが、これまでの職務型から課題達成型へ改善していきたいと思っている。資料の4つの部会については、昨年7月に地域、保護者、教員約40名で熟議を行い、抽出された課題を類型化してできた部会である。例えば「心・やさしさ向上部会」には、校務分掌でいう道徳科の担当、あるいは生徒指導の担当などが関わっていく。単純に自分の分掌をこなすという意識ではなく、分掌が何のためにあるのか、どんな課題を解決していくためにあるのかということをも明確化、意識付けするものである。

時間改善についてであるが、「カエル5」という「鴨東型働き方改革のスタンダード」を作成した。最終退校時刻は19時としている。初めは県の「働き方改革プラン」に記載されている目安の20時としていたが、企画ミーティングで民間の方から「なぜわざわざそのような遅い時間にするのか。それでは早く帰らない。」と言われた。まさにそうだなということで19時に変更した。

「カエルボード」については、朝出勤した際に退校できそうな時間に名前の札を置き、退校時に自分の学年に戻して帰る。予定通りにならない場合はあるが、見通しを立てて業務に取り組む意識を持ってもらうようにした。そして、遅い日が続いている教員には「今、大変そうだね。何か手伝えることない？」と管理職等も声を掛けている。大変効果的であると考えている。会議については、まず協議なのか、報告なのかを精選し、項目の所要時間を明記した。同じように終礼も、名前、項目、所要時間を終礼黒板に明記し、確認するだけの項目は「その他」に書き、全員が常に見るようにしている。その結果、いつもダラダラと20分以上かかっていた終礼が5分程度になった。また、教員も全てを読んで説明するのではなく、ポイントを絞って説明するようになり、プレゼン力の向上にもつながっていると感じている。

環境改善については、8月にコクヨ株式会社へ研修視察に行き、職員室の環境改善についての連携をお願いした。コクヨ株式会社からは、改善後の職員室について、イメージのコンセプトが必要ということだったので、全職員に職員室環境改善アンケートを実施し、職員室に来ることがある委員会の児童にも聞いてみた。児童は本当に素直で、「ものすごくぐちゃぐちゃしているから、もっと綺麗にしてくれたら嬉しい」「どの先生がどの机なのか、もっと分かりやすくしてほしい」など、子どもらしい厳しい意見が出た。教員は苦笑いをしていたが、新たな気付きもあった。職員や児童の意見をもとに職員室イメージを作成し、それをもとにしてコクヨ株式会社から提示された図案が資料に掲載しているものである。また、職員間の人間関係の構築に向け、職員レクにも取り組んでいる。

以上の取組を実施した結果、11月の超過勤務時間は一日一人平均111分で、29%減少した。現時点での効果を資料に示しているので、ご覧いただきたい。

今後に向けてであるが、働き方改革でできた時間や気持ちの余裕がどんなことに変化したのか、ワークとライフの両面で調査をしたいと考えている。2つ目として、職員室のレイアウト改善を2月17日(土)に実行する。PTAや地域の方々が「手伝える」と言ってくれており、一番心配だった配線の関係は「保護者に電気関係の仕事をしている方がいる」ということで、地域の方がすぐに電話をして、対応してくださっている。本当に助かることで、チーム学校というのは、地域や保護者の方を含めたチームなのだということを改めて実感しているところである。そのほか、資料の写真にあるマトリックスに、改善アイデアやお得情報等をいつでも付箋で貼れるようにし、コミュニティ・スクールの中で実行・検討するなど、協議していく。また、これまでの改革のプロセスや残業時間の見える化、会議のペーパーレス化など、今後も改革の継続を図っていきたい。

最後に、浅口市では本年度中に留守番電話が全小中学校に設置される予定である。  
ご清聴ありがとうございました。

#### 【知事】

安田校長、ありがとうございました。まず、中身も素晴らしいが、プレゼンのやり方が良かった。本当にテキパキしていて、分かりやすく教えていただいた。

発表していただいた鴨方東小学校の大変良い例も参考にしながら、これ以外のことも含めて、教育委員の皆さま方にはどういった取組に力を入れていくべきなのか、ぜひ率直なご意見をお聞かせいただきたい。

#### 【教育委員】

私は、臨床心理士として、長年スクールカウンセラーをしているので、現場の先生方の様子を見させていただいている。その中で感じるのは、やはり保護者への対応について、大変熱心な先生がたくさんおられるが、その反面、対応に長い時間を使われているということである。

#### 【知事】

そのような仕事は、いくらでも時間がかかってしまう。企業のクレーム処理やトラブル対応も、やり出すと通常業務を全部食ってしまうこともあり、大変である。

#### 【教育委員】

先ほどの県の資料に「どのようなことに時間をかけているか」というものがあったが、授業準備や、校務分掌にきちっと対応することがやりがいと答えている方がいる。安田校長のお話の中にもあったが、授業準備にどれだけの時間をかけるのかということに対して、目安や目標設定がないのではないかと感じた。そのような目安づくりも、必要ではないかと思う。民間企業であれば、残業する場合は申請し、上司から「その仕事、本当に1時間かけるの？」と聞かれたり、工程のOJTがあって、自分の仕事の質を高めていくために何かしらの努力があるというようなやり取りがあったりする。そのようなやり取りが学校でもあっても良いと思うが、発表いただいた鴨方東小学校の場合、そういうことが見える化されている。

#### 【教育委員】

私も保護者の対応がすごく大変だと思っている。私自身も現在は保護者なので、耳が痛いところもあるが、学校側も保護者の話を聞き過ぎず、意見と割り切っていくことも必要だと思う。それが不誠意に伝わるかもしれないが、そうではなくて「ここまでは学校できちんと対応するが、それ以降は家庭のことです」というかたちで割り切るようにしていくことがとても大事ではないかと思う。それをやった上で、学校によっては、18時や19時以降は連絡を受け付けられないという対応をすることで、保護者も何

時以降は学校と連絡がつかないと思うようになる。夜遅くまで電気がついていると、「先生がいるかもしれない」と思い、電話をしてしまう保護者もいるかもしれないので、きちんと線引きをして「こういう対応をします」ということを保護者に知らせる。保護者対応については、そういうことも大事なのではないかと思った。

#### 【知事】

「保護者の方のご理解がいただけなくて、2、3時間ずっと黙ってお話を聞いていた」とか、「毎日来校されて、ずっと内容的には繰り返しの多いお話を聞いている」という話を私も視察先の先生から聞いたことが何回かある。

#### 【教育委員】

小学校の場合は、あまり部活動が負担にならないと思うが、中学校・高校になると部活動も教員の仕事の重要な部分になっている。特に今は、部活動が子どもだけではなく、親も結構関わるようになってきている。そういった状況の中で、学校の部活動は、本来どのような教育目的で、どこまでやるのか。現在の状況では思いの違う人が混在しており、例えば、トップアスリートを目指したい人も中にはいる。改めて、学校の部活動はどのような教育目的で、どこまでやるのかということを県教委として、一度明確にしっかりと示していく必要があると思う。

部活動とはこういうものだということが共有されていないから思いが違う。そのため、優秀な指導者がいる学校に越境して行くような場合もある。そうなるとう「部活動の一斉休養日を設けるのは、おかしい」というような話が出てくる可能性がある。改めて部活動のねらい、そして本当により上を目指す人は、社会教育というか、また違う受け皿を作っていくようなことを総合的に考えていくことが必要になってきていると思う。

国でも、そういうことをこれから考えようとしているので、共通認識を持つことが重要ではないか。

#### 【知事】

「部活動」という時に、人によっては「ちょっと体を動かす程度のもので良い」というイメージをして、実際にそれぐらいの活動をしている学校もあれば、「全国大会に行くのが当たり前」というような学校もある。同じ名前と呼んでいながら、実は同じネコ科の動物のネコとトラぐらい違う。きちんと議論しないとネコをペットに飼う話をしていたところにトラが来たら、大変なことである。

#### 【教育委員】

資料に書かれている取組は、基本的に必要だと思う。教員のような仕事は、どこまでやっても100%のない仕事だと思う。そこで、時間という認識を振り返ることをしていかないと効果は出ないと思うので、時間に対する意識が重要になってくる。鴨方東

小学校で、校長先生がそういう意識でやってみると、非常に短期間でこれだけの超過勤務時間の縮減につながったということは、やはり意識という問題は大切であり、その上に立つ管理職の方の意識が一番重要であると思う。各学校の先生が同じような意識を持てば、他の学校でも同じことができるのではないか。

#### 【知事】

これだけの超過勤務時間を減らす時には、経営者であれば、ある程度の質の低下を覚悟しないとイケない。しかしながら、鴨方東小学校の発表を聞く限りにおいては、質を低下させることなく、超過勤務時間を縮減できているように見える。全部の学校が同様の状況にあるのかは分からないが、まだまだ工夫の余地はありそうな感じがするプレゼンであった。

#### 【教育長】

先ほど教職員課長が説明した体系的な取組をしっかりとやっていく。また、モデル校である鴨方東小学校の取組が非常に良いものだったと感じた。地域や子どもを巻き込んで、外の空気を入れて改善していくことで得られる効果を県下の全校に広げていかないとイケない。中学校や高等学校、特別支援学校のパターンをモデル指定して作っていくということを全体的な方針でやっていかないと駄目だと思う。

学校の業務というのは自発的で創造的な仕事であり、時間という意識はなかなか持ちにくい。そのため、今年の夏に市町村の教育長と一緒に「我々が部活動の休養日の設定とお盆時期の学校閉庁をやることで、休みやすい環境を作っていこう」ということになった。結果として徹底できたので、やればできる。ただ、これを継続していくことが必要である。スポーツ庁がガイドライン骨子(案)を出したが、休むことが目的ではなく、休んでも効果的な練習によって技量は伸びるということである。中体連・高体連が主催する試合に加えて、スポーツクラブが主催する試合に学校がどんどん出ていっている。生徒はやりたいと考えていても、そのまま行っるのが良いことなのか。あるいは、引率は教員でなくても良いのではないかとといったような部活動の新しいかたちを国ともども研究していく必要があると思う。

浅口市が留守番電話を今年度中に全小中学校に設置することは、非常に良い取組であると思う。我々も盆閉庁で、保護者に「これは学校がさぼるものではありません。良い教育をするためにこういうことをやるので、ぜひ協力を」という文書を配った。新しい取組をする時には、地域や家庭に対して発信をしていかないとイケない。学校だけで勝手に取組を行っていることにならないよう、鼓舞していきたいと思う。

#### 【知事】

何のために働き方改革をするのかということが大事である。とにかく時間が短くなれば、それで良いというのでは、せつかくやっても本来の目的が達成できていない可能性もある。

ここまでの議論で、素晴らしいプレゼンをしていただいた安田校長から何か一言補足等がありますか。

#### 【安田校長】

やはり時間を減らすことが目的ではなくて、教員の質を高めるというところが大前提にある。時間を減らすことで、教員がじっくり教材研究する時間ができるとか、気持ち良く子どもに向き合うことができるようになる。プロジェクトチームの20代の教員に「1時間ぐらい早く帰れるようになったが、その時間に帰るとどうか」と聞いてみた。「今までは、家に帰ってご飯を食べたら、家族と喋ることもなく寝ていたが、1時間早く帰れるようになり、一緒に喋りながらテレビを見られるようになった」との返答があった。それだけ今までは、家の中で家族と関わりがなかったようである。教員の人間的な部分も良いように育てなければいけないと思う。それが最終的には子どもに返るということをすごく感じている。

#### 【知事】

自分でも思うのが、とことん働いて、家に帰って4時間寝るといようなギリギリな働き方をした時期は、実は放電しているだけで、あまりクリエイティブな、良い発想で期待以上の仕事できていたという感じではなかった。単に普通の人ができる仕事を3割余分にやったぐらいのことで、思っているほど良い仕事はできていない。働き方改革で、うつ病や過労死を減らすことも、もちろんすごく大事なことであるが、「質的に良くなった」「これまでと随分違うアプローチをして、子どもたちがさらに伸びやかになった」「元気になった」「学力も上がった」というようなこともぜひ考えていきたいし、可能性があるという気がする。

#### 【教育委員】

鴨方東小学校の取組で、コミュニティ・スクールとの一体化という話があったが、現在色々なところで行われており、面白い取組だと思っている。先程、保護者についてのお話があったが、保護者も地域で孤立してしまっている。そのため、自分が困っていることを学校に言うしかなくなり、長時間先生に言うってしまうこともあると思う。コミュニティがしっかりと機能すれば、保護者もすべてを学校にお願いするのではなくて、地域の親同士が連携して子育てに活かす場面が増えるのではないかと感じた。

#### 【知事】

子どもだけではなくて、保護者のことも担任の先生に全部かかってくるということもあるかもしれない。

#### 【教育委員】

地域や企業を巻き込み、町内会などの色々なところと一緒に取組むなど、



学校側も地域により一層出ていくことが大切だと思う。

#### 【教育委員】

鴨方東小学校の取組は、本当に素晴らしい。例えば、学校行事の廃止や簡略化を行っているが、学校行事で昔からあるものは、そのままずっとやっているところも多い。

#### 【知事】

新しく始めることはするが、やめる判断がなかなかできないということは、たびたび聞く話である。

#### 【教育委員】

P T A行事でも、なかなか自分の代ではやめられないと言う方が多い。保護者と一緒に「やること」と「やらないこと」を選別していくべきである。例えば、学校外のことでも、土曜日の夜、補導に立たれていることもある。それを地域に任せるなど、それぞれの小学校や中学校、高校で自分たちの役割分担をきっちりとやるべきである。そのようなことをやっていくことが、質を高めることや残業時間が減ることにつながっていくので、今やらなければいけないことは何なのかを考え、行事の見直しを行っていくことが大事ではないかと思う。

#### 【知事】

保護者の中には、仕事の関係でP T Aの役員になりたくてもなれない人もいれば、本当になりたくない人もいる。また、誰も立候補者がいないので、くじ引きで決めるとか、役員を務めるのが本当に辛いといったことも聞く。そもそも、バザーなどを行う際に、準備する方もお客さんも誰もやりたいと思っていないこともある。しかしながら、去年までずっとやっていたので、誰の権限でやめられるのかが分からない。そういう状況においては、働き方改革での行事の見直しが大変良いきっかけになる。10年、20年経てば色々なものが変わってくるので、新たに必要なものもあれば、以前必要だったけど今はそれほど必要でもないものも必ずある。先生だけではなく、保護者の負担軽減も同時に考えるのは大事なことである。大変良いアイデアをありがとうございました。

#### 【教育委員】

今まで先生は、おそらく学校の中だけでどうするのかということを考えてきたのだと思う。逆に、この働き方改革では、先生にも学校の中での教員という役割と、自分が住んでいる地域の住民という役割があり、地域住民として学校とどう関わっていくのかを考える機会にもなる。先生が地域住民としての役割を果たすことで、地域住民や一人の社会人としての視点を持つことになり、その視点での意見が先生自身から学校に入ってくるので、好循環の流れになっていく。企業においても、一つの会社の中

だけで仕事を一生懸命に長くやっていると、本当に価値を生み出しているかという、堂々巡りで同じようなことをやっていることもある。そうではなくて、ある期間で区切って、地域などで色々な役割をすることにより、自社の改革にもつながってくる。先ほど、生き方の改革というような話もあったが、そのような視点で、自分も地域社会の一人の市民としてどう生きるかということや、職業としての先生を考える。そうしたことにつながってくれば、もっと幅ができてくるのではないかと思う。これこそが本当の働き方改革だと思う。

### 【教育委員】

鴨方東小学校の場合、PTAも含め、コンサルタントなどの外部の方も入っているので、外からの色々な話を聞くことができている。組織の中にいると、なかなか自分のやっていることがどこに向かっているのか見えないことが多い。今回それが明確になり、改めて目的は何かと聞かれて考え直してみることで、超過勤務時間をもっと短くできるという話になったと思うので、外部の目は重要だと思う。鴨方東小学校だけではなく、教育庁自体にも、もっと早く外部の人に入ってもらって、時間を短縮するのも必要ではないかと思う。

### 【教育長】

教育庁の働き方改革も、外部の意見をしっかり参考にさせていただく。

これからの取組は先ほど申し上げたが、鴨方東小学校のように行事をやることについての割り切りをしていかなければならない。割り切りの時に「何のためにするのか」ということと、「本当にそれをやって効果が出ているのか、意味があるのか」という両面から検討して、見直しをする必要がある。管理職が「帰れ、帰れ」と言うだけでは、教職員の理解は得られないので、鴨方東小学校の取組は非常に素晴らしい。こういった取組を特に小学校から始めていけば良いと思う。管理職が変わらなければ、学校は変わらないと思うので、鴨方東小学校をモデルにやっていきたい。

教師業務アシスタントと部活動指導員についても予算要求させていただいているが、アシスタントや指導員が上手く機能して、学校の教員が子どもと向き合う時間をきちっと取れるような良い事例を学校から出してもらうことで、体系的、計画的、継続的にやっていきたいと思う。

### 【知事】

本日は、教職員の働き方改革について検討させていただいた。皆さま方から大変貴重なご意見を伺うことができ、本当にありがとうございました。

予定していたテーマについての意見交換は、以上とする。

せっかくの機会なので、話題は少し変わるが、この場を借りて1点、教育長及び教育委員の皆さまに私からお願いがある。

昨年11月議会で印象深かったものの1つに、高教研の議論があった。昨年11月

に高教研から、10年後の県立高校の教育体制の整備に向けた提言を受け、今後、教育委員会において実施計画を策定することになるが、高校には、地域の人材を育成し、地域の活性化に資する重要な役割があると考えている。高校に対する地元の皆さんの思い、それから5年、10年、それ以上先への影響、こちらをすればこのメリットとデメリット、あちらにすればその逆のメリットとデメリット、そういったこともよくお考えの上で、非常に大事な決断を下していただきたい、議論を進めていただきたいと考えている。

以上をもって、本日の会議を終了する。